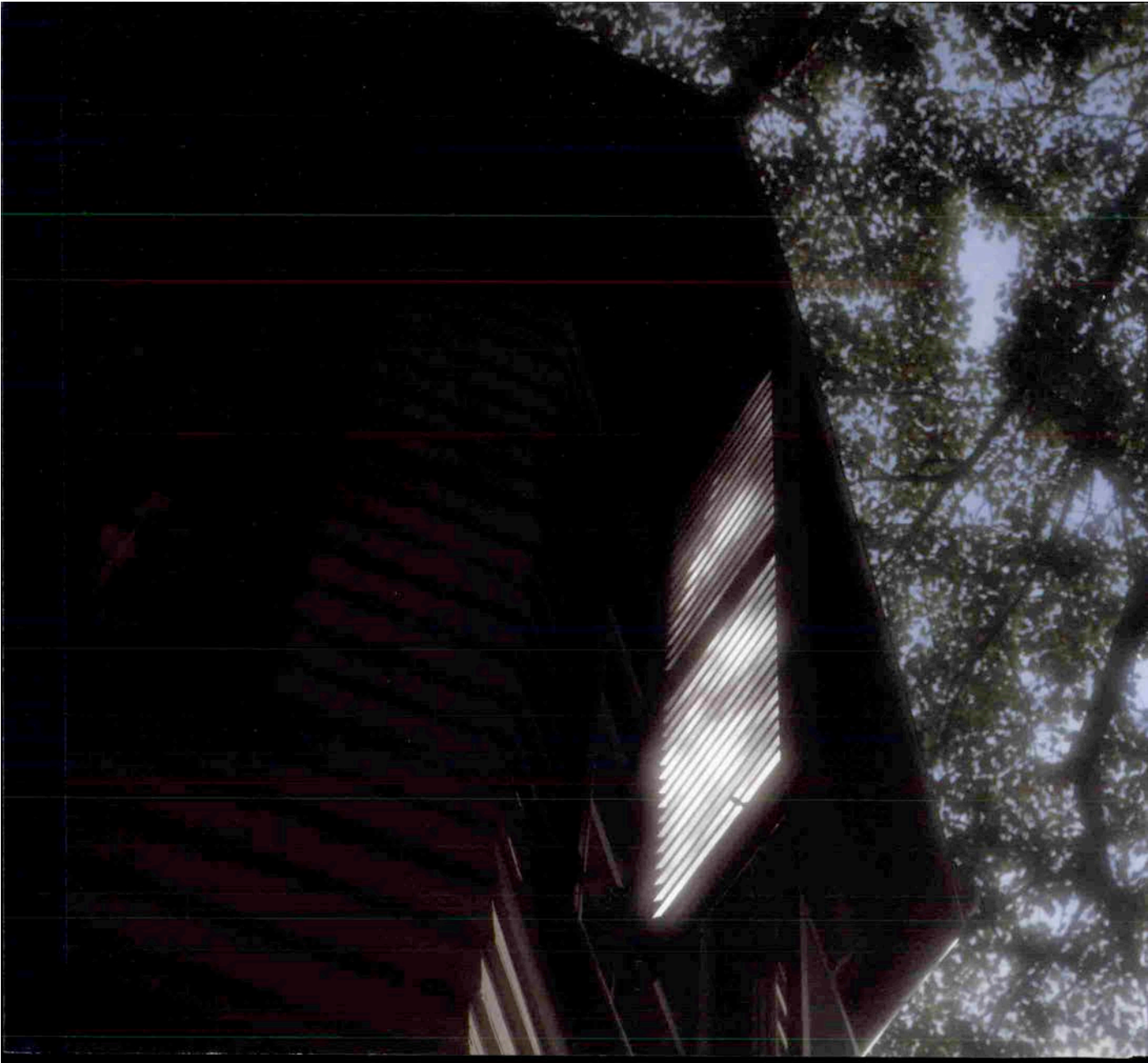


KOBE MONOGATARI

# 神戸の物語

緒方しげを NO・12





Merry Christmas

2006年のフィナーレはパールの輝きで.....



二連ネックレス  
(左右とも) ¥350,000



リング  
¥30,000



リング  
¥41,000



リング  
¥28,000



イヤリング  
¥125,000



イヤリング  
¥99,000



イヤリング  
¥40,000



KINOSHITA  
PEARL  
CO., LTD.

Order Salon

株式会社 木下真珠

〒650 神戸市中央区山本通1丁目7-7(北野坂)

TEL (078)221-3170

10:00AM~6:00PM (無休)

●12月29日から1月4日までは休ませていただきます

●リング、ネックレス、イヤリングなど、プレゼントにもぴったりの  
お手頃な商品を豊富に取り揃えてお待ちしております。





あなたといっしょにフリーストーフ  
おしゃべりミツウ



🍷 'Xmas には毛皮を着て

もうすっかり冬のファッションとして毛皮が欠かせなくなって来た昨今は、毛皮をいかに着こなすか—という時代になって来ました。ヨーロッパの冬の街角は、うんとゴージャスな毛皮、ファッションナブルな毛皮何代にも受けつがれたと思われる古くて気品高い毛皮、様々な毛皮を皆スッキリと背をのばし、自信にあふれて着こなしています。

つくづく「良い女」にこそ毛皮はよく似合うと見とれてしまいます。早く日本でもそうなってほしいと願いつつ、いえ、もう今や日本女性もすっかり毛皮を着こなしてしまっていると、喜びにふるえつつ、お客様に見とれる事も度々の今日この頃です。例えば今回のモデルになって頂いてる多田様のように。

さあ、'Xmas には、毛皮を着て冷たい街をさっそうと歩きましょう。そして冬を楽しくリッチに過しましょう。

企画室長 大島智恵



最高の品質と信用を誇る毛皮専門店  
**ベニー毛皮店**

〒651 神戸市中央区御幸通 8 丁目 1-6  
神戸国際会館1階 TEL (078) 221-3327代

〈着る人・ベニー毛皮店のお客さま〉

おしゃれ大好き!

多田 恵子さん(甲陽園在住)

撮影協力/神戸北野公開異人館展望塔の家

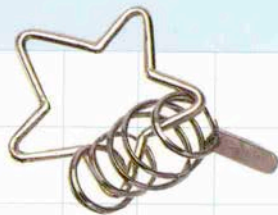


愛という星。夢という星。いつもは心の中に眠っているたくさんの星がいっせいに目覚める。それがクリスマス・イブなのですね。彼の、彼女の、そして家族のことを想う気持ちがパツときらめいて地上を飛びかいます。愛と夢をのせて、プレゼントに姿を変えて。それは素敵な街の流れ星。

星の  
ク  
リ  
ス  
マ  
ス



タオルたちがイヴのためにきらめいて。  
(自由に詰めあわせができます) ●ホ  
ールマーク／バスタオル3,600円フェイ  
スタオル1,300円ウォッシュタオル800  
円■4階タオル売場ホールマークショ  
ップ



鍵の保管は、どうぞこの星  
におまかせください。●キ  
ーホルダー1,800円■1階ハ  
ンドバック売場

さあ、ベビーたち。小さなサ  
ンタさんと遊びましょ。(他  
にも楽しいグッズがいろいろ)  
●ハウスハットン〈アメリカ直輸  
入〉／小物入れ2,300円ガラガ  
ラ1,800円■6階ベビー用品売  
場



親しい方に毎年一枚づつ贈る、  
というヨーロッパの風習をまね  
て。●ウエッジウッド・ピータ  
ーラビット／クリスマスプレート  
5,000円■5階特選食器サロン

ハーブに包まれたキャン  
ドル。花の香りとともに  
パーティの幕があがります。  
●キャンドル各3,800  
円 ■2階バラ色の暮しコ  
ーナー



街の  
流れ  
星

★  
プ  
レ  
ゼ  
ン  
ト



DAIMARU KOBE

電話 (078) 331-8121 年内無休／連日7時



# 生活公園

人から人へ、1年のフストシーンを熱くするお歳暮やクリスマスギフト。贈る人がキラキラして、贈られた人がチカチカして、贈り物が人を輝かせる不思議な力を発揮します。  
星座のように、全館がきらめく、生活公園。



DAIMARU KOBE

電話 (078) 331-8121 年内無休/連日7時

海に見える白いチャペルでウェディング。

御結婚披露宴・

各種パーティー

好評予約受付中



海を見ながら、神戸ならではのファッションブルなブライダルは、恋人たちの夢。  
白亜のチャペルに続くホールでのご披露宴や、劇場を利用した世界で初めての  
シアターウェディングなど、感動的シーンの演出を心がけています。  
カリヨンの音色に祝福されて、慶びもいよいよクライマックスに――。

## ゴーフル ポートピア88

神戸 風月堂 港島

〒650 神戸市中央区港島中町7-2-2 ☎(078)302-5555

本社／〒650 神戸市中央区元町通3丁目3番10号 ☎(078)321-5555

ゴーフル ポートピア88  
ボートライナー中埠頭駅前  
(ゴーフル白いチャペル前)







カット／杉山知子

これは神戸を愛する人々の雑誌です  
あなたのくらしに楽しい夢をおくる  
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ  
これは神戸っ子の心の手帖です

## 12月号目次 ● 1986・No 308

表紙／小磯良平

セカンドカバー／中西勝

9 神戸っ子86／藤井淑子・森本晃生

12 ある集い／①かんかんかん展②C・D・C

15 コウベスナップ／新知事誕生・兵庫県文化協会創立20周年記念

16 詩画集「四季」詩／安水稔和・絵／津高和一

18 神戸の物語／緒方しげを

29 私の意見／貝原俊民

31 随想／河本和子・有村桂子・宮崎修二郎

34 連載エッセイ／三和和子・カット元永定正

36 こうべ味な旅／こうのこのみ

38 K O B E 音楽夜話②／小室豊充

41 地域文化論／嶋田勝次

42 〈特集〉「イメージの神戸」

文・多田智満子・元永定正・鈴木 漢・著 竜一・石阪春生・伊勢田

史郎・堀江珠喜・武田信明・杉山知子・白羽弥仁

写真・緒方しげを・杉尾友士郎・藤原保之・森井祐紹・小山 保

62 経済ポケットジャーナル

64 キャンペーン座談会／「神戸ケミカルシューズ」藤本芳秀・三木公輔

石原昭久・前田治夫・上田真一・松岡 満・市野木江充子

74 話題のひろば／①神戸っ子野球大会②センター街

76 ファッションスポット

84 もうさんのHYOGO WALK ⑤ 海神社海上渡御祭

86 神戸のお嬢さん／久保淵雅子・市川聡子

89 話題のひろば／③芦屋ラポルテオープン

104 ファッションウォッチング

117 コーヒーブレイク

118 動物園飼育日記(253)／亀井一成

122 小山乃里子の華麗なる男のインタビュー／片山義美

128 神戸を福祉の町に／橋本明

130 スポーツエッセイ／角南昌弘

134 神戸の集いから

136 有馬歳時記

138 出合いの旅／永田典子

140 プロフェッサーPの研究室／岡田淳

142 KOBE MODERN CULTURE

144 シネマ試写室／淀川長治

146 神戸百貨店だより

149 ぴっといん

150 ポケットジャーナル

154 小関三平のやぶにらみ見聞録③ふえろう村を訪ねて

158 連載小説「おどろ海賊」塚田照夫・カット／辻司

180 魔女学入門／文・ソシキリテース 絵・マダム最世子

182 海・船・港／やったアノボートウォッチング／かどもとみのる

カメラ／米田定蔵・池田年夫・松原卓也・坂上正治



新しい関西を創造する総合雑誌

# オール関西

好評発売中 ¥580 (年間購読 ¥8,000) 12月号

## 特集企画

1. 「東の美・西の美」 イサム ノグチ他
2. 年末年始のホテルライフ
3. ナウトーク 新人類学巷議
4. 86年お歳暮事情



上方味覚紀行「すし方」

文／楠本憲吉

卒業生篇 文／篠原茂一  
「関大人国記」(最終回)

■ビッグインタビュー  
**金剛 巖師**  
(能楽金剛流 25世 宗家)



関西百撰会

京阪神の老舗がお届けする買い物情報

旅企画

関西の奥座敷湯の街有馬



★スターハイライト

宮川大助・花子

■オール関西株式会社／〒530 大阪市北区曽根崎2丁目15-24 曽根崎ビル4F ☎06-363-1255

新宿・高野

BONFUKAYA

ゲルラン

ココ山岡

VICKY

LEE SOPHY

ELLE

アベニュー22

ブライダルサロン・ループル

ダイアナ

サイズショップダイアナ

OFU

CLAUDE LEMA

ZAZIE

LE.MON TEA

三愛

# CHRISTMAS COLLECTION



CHRISTMAS COLLECTION 11/21fri-12/25thu

きらめきのクリスマス・プレゼント

- ・サンフランシスコ・ロスアンゼルス・ハワイ 8 日間の旅。
- ・SAPPORO 雪まつり&スキーツーの旅ご優待など。

※くわしくはFASHION PARK INFORMATIONで(PHONE078-391-6837)

12月は休まず営業致します。

## FASHION PARK

神戸・三宮(さんプラザ・センタープラザ)

3F

営業時間 A.M11:00~P.M8:00

PHONE 078(332)1698



街の喧噪から解き放たれ  
マインドトリップを楽しむ時間  
懐かしい恩師の笑顔、手放した愛車  
もう手に届かぬものばかり思いはせる  
心の傷が少し痛むのは、若さの名残…



## 神戸眼鏡院

元町店 / 神戸市中央区元町通3丁目

TEL (078) 321-1212 (代)

三宮店 / さんちかローザアベニュー

TEL (078) 391-1874 ~ 5

☆私の意見

# 大胆なデザイン ができる

## 「若い県」

貝原 俊民

△兵庫県知事△



明るい街、ハイセンスな街、それが私にとつての神戸のイメージです。学生のころ、岡本に住んでいた仲の良い友人を訪ね、夏休みや冬休みに東京からよく遊びにきましたが、当時から緑に包まれたしよしやな家や大きなガラス窓のコーヒーストップがあり、神戸という街は随分しやれたところだなあと感じました。神戸のもつ明るさはとても新鮮でした。

神戸は文明開化のころ、たくさん新しいものを真っ先に取り入れています。ゴルフ場もそうですし、映画もそうです。この文化面での進取の気性に富む神戸であるからこそ、ポートピア博覧会やユニバーシアード神戸大会が成功したのです。今、関西新空港や明石海峡大橋といった大プロジェクトが実現に向かっており、新大阪湾時代を迎えようとしています。とりわけ明石海峡大橋は、海峡のもつ景観の素晴らしさといま世界一の吊り橋として、神戸の街を世界的に有名なものとするに違いありません。神戸の背後地である丘陵には、自然を生かした、ディズニールンドのような恒久的な施設を設けることも夢ではありません。さらに、国際的コンベンション都市やファッション都市としてのまちづくりも進めねばなりません。また、神戸空港の実現をめざすとともに、神戸市が情報発信基地として発展しなければなりません。このような基幹プロジェクトの実現とともに、地域整備を行っていくことで、大きな蓄積をもつ神戸・阪神地域は、二十一世紀の国際的な交流都市圏・芸術文化都市圏として、さらに大きく飛躍することでしょう。

神戸・阪神だけでなく、県内の他の地域を見ても、美しい自然があり、その中ではぐくまれた伝統文化や産業があります。それぞれの地域のもつ個性を生かし、魅力ある地域づくりをさらに進めていかなければなりません。

兵庫県は数多くの可能性を秘めています。二十一世紀に大胆なデザインができる「若い県」なのです。私は、これから一つ一つの可能性を県民とともに着実に実現していくところに、明日の兵庫が拓けてくると信じています。

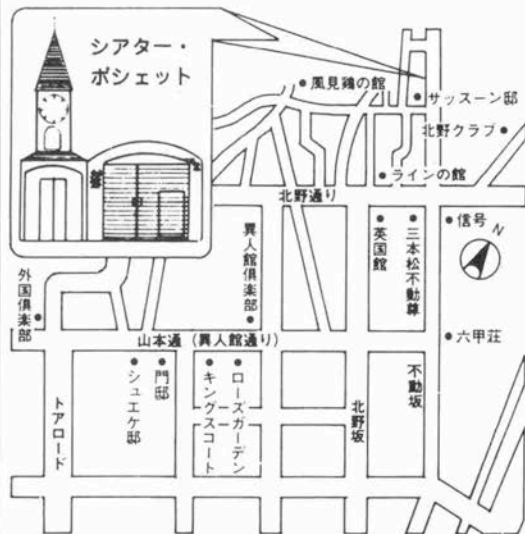


実験交流サロン

# シアター・ポシェット

## 12月の公演

- 6日(土) てぶくろグループ  
「あわてんぼうのクリスマス」(人形劇)  
開演 15:00 終演 16:30
- 7日(日) 現代風俗研究会講演  
開演 13:00
- 13日(土) 神戸学院大学 演劇部 第23回公演  
「朝日のような夕日をつれて」
- 20日(土) 神戸女子大 古典落語(午後)



### ★シアター利用のご案内

- 曜日、時間/土、日曜日(通常) A.M.10:00—P.M.8:00
- 費用/ホール設備の使用無料。光熱、空調、管理費のみ実費
- 付帯設備/グランドピアノ・エレクトーン・録音、音響機器、ミキサー、照明コントローラー・テープレコーダー、マイク、映写機等
- お申し込み、お問い合わせ  
そごう前センター街東南角、さんちか入口

〒650 神戸市中央区三宮町1丁目5-1 住友銀行ビル6F  
佐本小児歯科 佐本 進 ☎ 331-6302~3

MERRY  
★ CHRISTMAS



— 北 欧 の 銘 菓 —

## 2-ハイク・コンフェクト

本社・神戸市中央区熊内町1-8-23 ☎ 221-1164

# 随想

折り／河本和子



## ワイン中毒

河本 和子

△画家▽

いつのまにワイン中毒になってしまったのだろう。今年の夏は特に暑く、絵筆をおくともうクタクタ、気付けぐすりとして冷蔵庫から冷えたワ

インを飲む美味しさ。花隈のアトリエから自宅に帰るための元町通りは殆ど酔っぱらって歩いていた。眼鏡をかけないと人の形も判らない私は行き交う人間が熱帯魚に見えた。ほろ酔いだからまるで海底を散歩する気分だった。朝は自宅からアトリエに行く時間は

デパートが始まる頃、昼食用の材料を買いに食料品売場に立ち寄るとワインの試飲コーナーがある。いやしい私は必ず試飲をする。口に合うのを見付けると壺を抱え又、元町通りをフラリフラリ歩くことになる。

白ワインに鮎ずしが最高なのはおそらく誰も知らないだ

ろう。小振りの固くしまった鮎ずしを紙の様に薄く初り、ゆっくり噛みしめながら白ワインを飲む。東洋と西洋が口中でドッキングする、私の発見した味覚の芸術だ。このさやかな贅沢のできる幸福。

ワインについては大失敗がある。昨年秋、成田空港からアムステルダムに向けてKLジャンボ機で飛び立ってすぐ、夕食に白ワインがついていた。忽ちあけて赤をもう一本、とオランダ人のスチュワードスに頼むと、彼女はえ？まだ飲むの？という顔で持ってきた。

あちらの方に黒人のすごい美男のスチュワードがサービスしてるのいい酔心地でうつとりと眺めていた、足は長く、小さな顔に私好みの口髭、大きな目、白い歯、なんてセクシイ、美とはこれだ、と思ってるうち急に頭がカラッポになり隣席の友人に「私、気が遠くなりそう」と叫んでトイレに向う途中倒れてしまった。

馬鹿な私。誰かと心中して死ぬのが夢なのにワインの飲



海文堂ギャラリーで河本和子さん



み過ぎて救急車もこない空の上で死ぬんだわ、自業自得とはこの事ね、これが私の人生か、やっぱり私は虫ケラだった、等反省してる時、頭の上で日本人スチュワード스가「まあ、二本もお飲みになったんですか、アルコールは地上の三倍まわりますよ」とっている。薄目をあげると例の黒人スチュワードが心配そうにのぞき込み私の油汗を冷たいガーゼで拭いてくれている。まあいいや、美男に看取られて死ぬのなら、とその時は覚悟を決めた。一年後のいま、まだ生きている。来月又、成田からリスボンに飛び立つ。絶対又、二本飲んでやろうと思っている。

## シン・ポジウム森林 と人間に参加して

有村 桂子

△いるか設計集団△



十月十八日、高槻市役所大集  
会室で行われたこのシン・ポジ

ウムは、参加者三百人以上もあり、大そう熱気に包まれたものであった。筒井迪夫東大名誉教授の司会で、基調報告の第一部（緑と里山の役割）の第一バッターは高橋理嘉男大阪府立大教授。里山近郊林の保全と地域制によって緑のルールを作っていくという提案。やさしげな風貌とお声からの提案は説得力のあるものだった。つづいて高槻市勤務の栗本修滋氏。

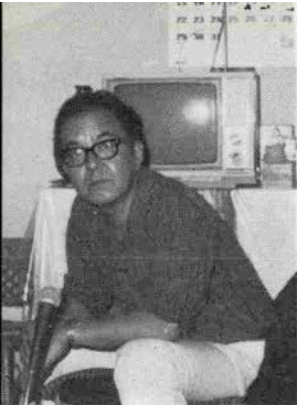
高槻市の「森林観光センター」がある程度の成功を収めているが、しかし全体として林業者の減少と老令化は森林の荒廃を招いている。それに対する対策として個人が森林を手放さなければならぬ。現時市が基金を集めて買上げて保全をしていくような制度を確立する必要があるという主張。つぎの半田良一京大教授のレポートは次のとおり。明治初期には、はげ山も多かった。明治以来の人々の努力によって森はつくられた。現代は開発によって都市近郊林が荒廃している。材木の需要を増して都市近郊林の林業を守るよ

うに考えなければならない。半田先生はほっそりした体全体で、森林を守ろうというお気持ちを表現されていた。その後十五分の休憩つづいての討論。討論には三十人近い人々から意見が出た。その中で間伐材の利用に対する意見や、高橋先生から再び開発に対して緑の保全を義務づけて緑のルールをつくり出そうという提案があった。

### 第二部（都市の緑を守る）

は大阪大学の御病氣の上田先生のピンチヒッター、加藤先生の報告から始まった。先生の提案は鎮守の森を都市緑化の拠点として考え、守り育てていくという意見。

続いて、私。建築に直接緑をおおいかぶせる試みをスライドで紹介。最後は、元氣いっぱいの南雲東大教授。緑の保全は土地利用問題として考えなければならない。横浜市民の森のころろみは所有者と市が契約を結んで税金と同額のもの、樹林の管理費にあて、森林を市民の森として開放したが、市民のマナーが悪く、10年の再契約に持主がこ



自宅で宮崎修二郎さん

とわるということも出て  
いる。又森林は人の手が入って  
始めて保全出来る。森林もゾ  
ーニングして考えていかねば  
ならない。というお話。

熱気に満ちたディスカス。  
一日があつという間に過ぎ  
た。神戸は素晴らしい都市近郊  
林、六甲山系をもっている。  
守り育てるのは、私達の責任  
であると痛感した。

## ここに時間が駐っ ていた

宮崎修二郎

大阪芸術大学講師

ある日、天王寺への散策を  
思いたち、素盞神社への石段  
をのぼっていきました。甲南  
大学裏手の山。

随分前から、その見事な  
原生林が気にはなっていたの  
ですが、いまさらのように、  
神戸にこんな「原始の秘境」  
があったのかと心をときめか  
せました。

神社のある高みから、残念  
ながらひろやかな展望を手  
にのせることはできません。樹  
木の茂りで「みぬめのうらと  
なりけるかな」です。「をかも  
とのいえはすみよし」と岡本  
梅谷の住み心地を喜んだ谷  
崎潤一郎も、庭木の茂りには  
「うみのながめははぐれ  
て」と託っています。ここは  
文豪の視座にあやかって、木  
の間がくれの眺めを楽しむ所  
だといっているのでしょう。

何とも静かです。フィトン  
チッドの効果でしょうか、濁  
っていた脳髓が心なしか、す  
っきりしはじめたようで、そ  
の証拠に持ち前の詮索癖が頭  
をもたげはじめました。この  
原生林が、なぜこの開発時代  
の中で自然を保ちつづけてい  
るかということです。

それは、きっと地元住民の  
意志が、この神域を核にして  
きたからに違いありません。

神に対する信仰はたとえ薄れ  
ても、先祖から無意識のうちに  
伝えられている「地霊」が  
あるように思われるのです。

この社が記録に現れる最初  
は、元禄五年の寺社吟味帳で  
いつごろの進請かは不明です

が、当時は祇園午頭天王社、  
素盞鳴と改称されたのは慶応  
四年、長年にわたるこの地域  
(岡本)の信仰の中心だった  
わけです。そうした聖なる神  
域であったことが、社叢に斧  
鉞をいれなかったのです。そ  
れどころか、その共同管理の  
厳格さには、目をみはります。  
△杉木百六本、楊梅式百九十  
七本、榎木百四十四本、木百  
五十七本△と明治四年七月の  
記録があることから、当時  
の地域住民の地霊信仰に根ざ  
した社叢保護の熱意のさまが  
窺えることです。

わたしは、この神域に自然  
保護の原点をみるおもしろい  
がしました。そして、井原西鶴の  
「世間胸算用」の一節を、フ  
ンと鼻先でせせら笑ってみま  
した。商売はいざ知らず、自  
然は理屈や計算だけではどう  
にもなんのですよ、と。フ  
ィトンチッドの効きすぎでし  
ょうか。

△ひとつ求むれば其身一代  
子孫までも譲り伝へる挽碓  
さへ、日々年々に御影山も  
切りつくすべし△。

★「文学のおもかげ東遷」宮崎修二郎著  
発行／神戸市民文化振興財団・神戸市立東遷  
文化センター 定価13000円

●れんさいエッセイ●ペンのうちそと●21

# 無くても……泣きぐせ

三枝和子(作家)え・元永定正

最近、涙もろくなって困っている。それも、自分で喋りながら泣けて来るようになって、始末におえない。

もともと泣き虫である。映画、演劇のたぐいを観ていても恥しいくらいである。特に浄瑠璃がいない。

いつだったか「寺小屋」で、後ろの席におばあさんの三人連れがいて、それまで、さかんにお寿司だ、みかんだ、飴だ、と交換しあってにぎやかに食べていたのに、

「さあ、いよいよ『いろは送り』だっせ。ほな泣きまひよか」

と一斉にハンカチを取り出したのには驚いたが、なるほど、と納得もした。

私も、そうである。前もって筋道が分っている、泣くところへ来ると必ず泣くのである。だから何度も観ているうちに馴れて、自然にハンカチを用意するようになっていた。

それでも歌舞伎や文楽の席では、周囲に泣くひとが沢山いるのでまだしも。新劇で泣いたときは我ながら呆れた。『欲望という名の電車』のブランチ。杉村春子さんの当り役だったけれど、何故か青年座の東恵美子さんのときに泣いた。自分の、

当時の心境に響くものがあつたのか。女の荒涼とした孤独が身にしみて、あとからあとから……。明るくなってカッコ悪くて。まっしぐらに、おトイレに駆けこんだ。

十年くらい前、酒癖に変化が起り、酒量が或る程度を超えると必ず泣くようになったこともある。飲み屋のカウンターに座っていて、隣りのひとが、ママさん相手に、しみじみと、

「ああ、あ、おれも、いつのまにか四十になっちやったよなあ」とか、

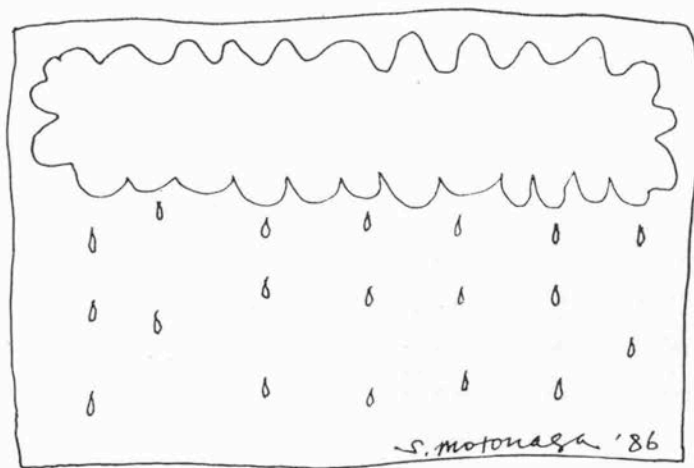
「妻子が居なきゃなあ、妻子さえ居なきゃ、あんな会社へなんか行かないよ」とか、

溜息まじりに、グラスを傾けているのを聞きながら、ふっ、と涙ぐまれて来るのである。もちろん親しいひとではない。勤め先なんかも知らない。「こんばんわ」とか、「お先に失礼」の挨拶程度の口しか利いたことのない間柄なのに。要するに泣き上戸なのである。

しかし、劇場や飲み屋で泣いているうちはまだ安全だった。とうとう、このあいだ講演会で、ソレをやってしまった。講演会といっても、ひとの講演を聴きに行ったのではない。自分が講師で、壇上にあがっていて、やってしまったのである。



浜松の女子高校で、千五百人くらいの生徒がいたろうか。ある財団がスポンサーで、新聞社が後援で、その方面のエライサンたちが右手にズラリ。左手には校長先生はじめ先生がたがズラリ。マクラに、或る同人雑誌の小説の話をしたのである。「白い小犬」という題で、主人公の「私」が近くの牧場を通りかかったとき捨て犬の場面を目撃する。そこは、野良猫や野良犬が雨露をしのぐのに恰好の場所らしく、捨てる人があとを断たない。走って来た車もそうで、窓から赤いリボンの首輪を結んだ白い小犬が投げ捨てられた。小犬は捨てられたことを知らず、ちりちりと可愛い鈴



の音を響かせながら走り廻っていた。何カ月か経ち、再び会った小犬は野良犬たちの仲間に入り、たくましく成長しているのだが、間もなく牧場が閉鎖され、野良猫や野良犬たちは保健所によって処分される。「私」は「小犬の現住所、天国——」と心の日記に書き、小犬の鈴は心の日記の天国で鳴り続けるのである。

これを読んだときは泣いた。講演は「文学の感動」について喋るつもりだったので、先ず素朴な話からはじめようと思ったのである。まさか、壇上で自分が泣きだすとは予想もしていなかった。

小犬が捨てられたときの、ちりちりという鈴の音のあたりから、声が震えて来て、ヤバイな、と思ったけれども止めるわけにはいかない。天国のところでは何度も絶句、遂に大粒の涙。ハンカチを出し、立ち往生。女生徒の半分くらいは貰い泣き。

主催者側も呆れたのだろう。終ってから、「とてもユニークな講演でしたね」

そりゃそうだろう。講師が泣き出すなんて前代未聞に違いない。

以来、講演のなかで、動物の話をするときは必ず涙ぐむようになってしまった。用心しながら喋るので、あの高校のときのように絶句したりはしないが、眼鏡をかけているので聴衆にはバレはしないが、いつもひっそり泣いているのである。

そして、泣きながら気がつくことだが、最近、人間のことで泣かなくなっている。人間はいつも加害者で、哀れな人間なんて、いなくなってしまう。子供も、女も強くなってしまう。そのうち、粗大ゴミのじいさんの話なんぞに涙を流すようになるのかなあ。

・こうべ味な旅 ②⑧

# お茶の時間

絵と文

このこのみ(画家)



## ＜筆者紹介＞

1926年、東京生まれ。1949年ごろより絵本雑誌等に童画をかき始める。1972年、パリにおいてナイーブアートに魅せられ大いに影響を受ける。1976年、第1回現代童画展にて大賞受賞。親しみのある絵柄は女性層を始めとして人気が高い。現在、現代童画会常任委員。

今朝宅急便が届きました。真赤な箱から金文字の黒い瓶につしりつまったコーヒーです。封を切ると素適な香り、「にしむら」のコーヒーは神戸の香りを運んできたのです。早速ローマでみつけた朱赤色の小さなカップにそいで、湘南の海を眺めながら神戸を想いました。(夫曰く、六甲の水がほしいな…)

バレリーナの加藤きよ子さんからの贈物でした。私が始めて神戸で展覧会をひらいたのは、NHKが「風見鶏」を放映していた頃です。異人館、六甲山、港と異国情緒の神戸は、私の作品の源泉です。その時風見鶏のモデルになったパン屋さんのクッキーを貰いました。白地に青い文字のさりげない包紙がいかに手造りの雰囲気があった、私はフロインドリーブのファンになりました。

私の絵の個展を神戸で開いて下さる三浦照子さ

ん。彼女が東京にくる時必ず抱えてきてくれる神戸のパン、焼きたての香りがこうばしくて、「世界一おいしいパンよ」ですって。パン好きの夫の好物なのです。

料亭薩摩道場さんに伺った折、帰りのおみやげに頂戴した出来たてのアップルパイは、新幹線の中でひざの上がホカホカとあたたかくて……あんなにおいしいパイは始めてでした。銘柄は忘れしました、ごめんなさい。

現代童画会のお友達が会場に届けて下さった、色とりどりの果実の砂糖菓子には、私には思い出の巴里につながります。街角の小さなお店に並んだ桜んぼ、レモン、リング等の砂糖漬を買って帰り持参の緑茶で食べた日、おしゃれっぽくて懐しい甘い思い出です。

これは神戸の味とは少しはづれますが…。

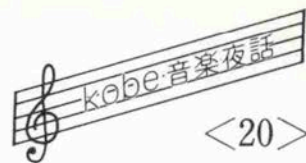
田辺聖子先生に連れて行っていただいてから、

大のタカラヅカファンになり去年の個展の合い間に、憧れのタカラヅカを見てきました。ワクワクと夢のような心地で始めて花の道を通って大劇場に、大地真央のさよなら公演に感激しました。お腹をすかして食堂で食べた「明石やき」の意外においしかったこと、卵の味がほんわかとまろやかでお吸物みたいなタレをつけて、大変ナイーヴな

味でした。そして忘れられない私のタカラヅカの味でした。  
おいしいものが一杯につまった神戸!!夫がそばから「支那料理もうまかったぞ!」ですって、でも今日はお茶の時間ですから…。  
お菓子は文化のパロメーターです。おいしいお菓子が沢山の素適な神戸は憧れの街です。







# 味覚と音楽の 素晴らしいハーモニー

小室 豊允

〈大阪府立大学助教授〉

アメリカの文化は、私の性格に合ったのか、一年来の滞米中は、楽しい毎日を過すことができた。

ところが、味覚については、どうしてもなじむことができず、私の舌のアイデンティティは、よほど「ナショナル」に、できているのかとも思った。

しかし、ニューヨークから低料金のエアバスでフランスをしばしば訪れ、この国の味覚には全く異和感がなく、結局、アメリカという歴史の浅い国が味覚文化を育てていないせいだとわかった。

たまたま、滞在したコーネル大学がニューヨークの北部にあり、カナダ国境まで車で三、四時間のところにあり、ヨーロッパの味覚をもとめてケベックを訪ねた。

その頃、ケベックはカナダから独立しようという住民選挙があったほど、フランスの植民地時代からのフランス文化の伝統が残っており、日常語はフランス語だし、街のたたずまい、ファッション

ンなど、パリ以上に、パリの必要な要素が満ちていた。

あれこれのフランス料理店の料理を満喫したが、偶然入った店は、パリのマキシムそっくりのどっしりした雰囲気、ワインをすすめたソムリエなどは、どこか貴族的な風格を備えていた。

ゆっくりと、メインデッシュから、最後のデザートまでを選んで、アペリティフが運ばれてきた頃に、年とったバイオリン弾きが、店の隅で演奏を始めた。

日本やアメリカ風に食事を盛り上げるバックグラウンドミュージックぐらいに考えていた私は、しばらくして、その演奏と料理の芸術的なマッチングに驚嘆した。

それは、始まりから盛り上り、やがて終りに向う食事のコースを計算し尽した演奏であった。

私は、その時、モーツアルトのセレナード第七番ニ長調K、二五〇「ハフナー」を完璧に理解できたと思った。

味覚と音楽の相乗が醸し出す豊穡の世界の中に

自分を置き、現実を忘却し空想する癖が、その時以来私に生まれた。

私の空想の食事はこうだ。まっ白なテーブルの上に、まわりが赤で真中が真珠色のバラが飾られている。ゆつくりと料理を決め、アペリティフ、(そう、フィノーのシェリがふさわしいが)をなめ始めると、マーチと共にオーケストラが入ってくる。第一章のアレグロでは、ふつくらとした色気をたたえた生がきと、きのこのスープにしよう。ひと休みの間には、新鮮なエビやカニのサラダ。アンダンテでは、舌びらめのドーバー風が、そしてメヌエットではアイスクリームでひと息。再びアレグロになるとレアのステーキでなければならぬ。この頃、舌と胃と心臓が最高の高鳴りと

なる。

次のメヌエットでは、マナー違反といわれても、にんにくとオリーブのきいたエスカルゴをはさもう。アンダンテではブランドーをもやしてこんがりこげ目のついたスフレ、そして、とび切り上等の紅茶でフィナーレとしよう。

エスコートした女性に毛皮のコートを着せて、高まりとほてりを少しでも長く残すためには、もう少し、その女性と時を過ごさねばならぬ。そんな空想の交響楽が、私の誰にも知られぬひそかな楽しみである。

#### △筆者紹介△

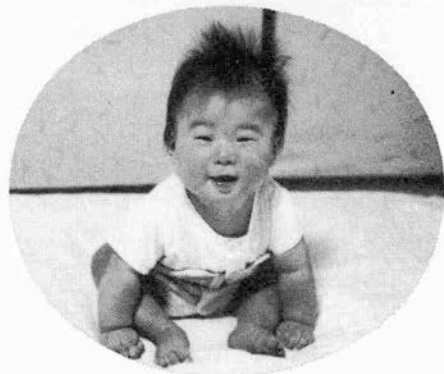
大阪府立大学助教授。

主な著書は、『福祉改革の思想と課題』(新評論)、『社会福祉施設制度論研究』(全国社会福祉協議会出版部)、『社会保障の変容と展望』(佐藤進退席記念、共著、勁草書房)



カナダ・ケベックの青い空、息子といっしょに小室教授

こんにちは赤ちゃん



松本竜馬ちゃん / 芦屋市公光町  
「いい笑顔でしょ…」

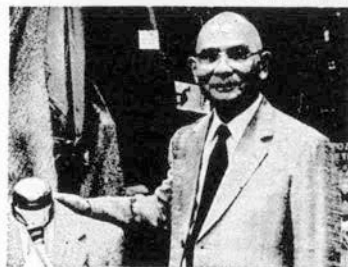
完全看護★冷暖房完備★病院前公共駐車場有

芦 柿沼産婦人科



芦屋市大柵町1番18号  
芦屋保健所東隣  
☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

ハイセンスな紳士服で  
最高のおしゃれを



三恵洋服店  
神戸・元町4丁目 ☎ (078) 341-7290